今日のみ言葉 251 「神は眠ることもまどろむこともない」 2015.6.13

私は山に向って目をあげる。
わが助けはどこから来るか、
わが助けは天地を創造された主から来る。
主はあなたの足がよろめかないようにし、
眠ることなく守ってくださる。（詩篇121の1～3より）

I lift up my eyes to the mountains; where is my help to come from?
My help comes from the LORD, who made heaven and earth.
He will not let your foot stumble
He who watches over you will not fall asleep!

私たちの永続的な助け、救いはどこから来るのか。そもそもそのような変ることのない助け手がいるのか、それはだれにとっても人生の過程で繰り返し私たちの前に浮かび上がってくる問題である。

生まれつき、非常な貧困や困難のなかに置かれているような、アジア、アフリカのさまざまの国、あるいは、病気とか体の障がいによって重い荷を負って生まれてきた人たち、さらにそうでなくとも、生きていく過程で自らの罪、あるいは高齢となって家族や友人もいなくなり、あるいは見捨てられた状況に陥った方々も数知れずいる。

そうしたあらゆる人々へのメッセージがここにある。周囲にひろがるこの天地宇宙を創造したお方―神こそはそのような助けである。

それは限りない希望である。人間の助け―肉親や友、また医者やカウンセラー、あるいは福祉関係の人たちによってももちろんさまざまの助けを受けているし、それがさらに大きな苦しみに陥ることから助けられたという人たちもいくらでもいる。私もそうしたいろいろなことによって助けられてきたのを思い起こす。

しかし、そのような助けであっても、決定的な限界がある。それはいよいよ医療も限界となって、死が近づくときには、死から救いだすことに関してはどうすることもできないということである。あるいは死を思うような悩み苦しみ、あるいは重病のゆえの絶望的状況となれば、もうそうした助けはどうすることもできない。

しかし、そのような状況に陥ってもなお、助けであり続けるのは、天地万物をも創造された全能の神だけである。私たちがいよいよいっさいの助けが失われる死ということに直面していっそうその神の助けは明らかになってくる。信じる者はだれでも、永遠の神の国へと導いてくださるからである。

老年となり、心身の機能がつぎつぎと失われていくさなかにあって、なおこの神の助けだけはいっそう心にはっきりと感じられてくるのは、大きな恵みである。しかもこれは病気の人、孤独な人、貧しい人―いっさいに関わらず、ただ、心から神を信じ、その神がこの世に送られたキリストを救い主と信じるときに与えられる。 そうして万能の神ゆえの助けであるゆえ、日常の生活においてもたえず守られることを信じることができる。

野草と樹木たち　　クチナシ　日峰山（徳島県）　　2015.6.8 撮影

クチナシは、園芸店でもよく見られるし、庭に植えているのもしばしば見られる花です。この写真は、わが家のある山に昔から自生しているものです。

家が山を少し登ったところにあるために、こどものときから、周囲の野草や樹木などの植物には関心があったけれども、その名前となると、ほとんどは知らないものばかりでした。

そのなかで、このクチナシだけは、両親も知っていたからこどものときから親しかったのです。その真っ白い花、黄色の大きい雌しべがとくに目立っていますが、それ以上にその香りが心ひくものでした。

これは日本でもどこにでもあるのでなく、静岡県以西で分布する植物ですから、東北や北海道の方々はこの野生のクチナシの香りには接することがないわけです。

そのクチナシは、花屋さんなどには、八重咲きのものや小さい花のもの―いろいろありますが、私がかつて知ったどのクチナシの香りよりも、わが家のある日峰山での野生のクチナシは、とくに香りに気品あるものと感じています。

花開いた直後の純白そのものが心を惹きつけるものですが、その香りもまた魂に届くハーモニーとなっています。

キリストの香り―という言葉があります。私たちが祈りに心を注ぐとき、そのキリストの香りがほのかに感じられることがあり、また長く信仰に歩んで、晩年を迎えた信仰者からも、ほのかなキリストの香りがただよってくるような方もあります。

神は、こうした自然のなかに驚くべき多様な花や香りを刻んでおられますが、今日の都会化した町々では、このような野生のクチナシ―はるか何万年も昔から続いてきたであろうその香りには接することができない状態です。

それゆえに、神はどのような状況におかれようとも、だれでも求めることによって与えられるキリストの香りを備えてくださったのだと言えます。

その香りはただ、神とキリストを信じるだけで、心の霊的嗅覚を敏感にすることによってこの世のさまざまの汚れた状況にあっても香ってくるようにしてくださっています。

キリストは、光であり、また力であり、命であり、そしてさらにいのちの水とともに、御国の香りをも二千年にわたって注ぎだしてきたのです。

（文・写真ともT.YOSHIMURA）